

二級河川打樋川水系
河川整備基本方針

平成16年4月

徳島県

打樋川水系河川整備基本方針

目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1)流域及び河川の概要	1
(2)河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	4
2. 河川の整備の基本となるべき事項	6
(1)基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項	6
(2)主要な地点における計画高水流量に関する事項	6
(3)主要な地点における計画高水位及び 計画横断形に係る川幅に関する事項	7
(4)主要な地点における流水の正常な機能を 維持するため必要な流量に関する事項	7
(参考図)	
打樋川水系流域概要図	8

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 流域及び河川の概要

流域の概要

打樋川は、徳島県阿南市富岡町を源として西から東に流れ、阿南市七見町で南に向きを変えて田園地帯を流下し、阿南市見能林町において右岸支川の三谷川をあわせ、水門を通じて紀伊水道へと注ぐ二級河川である。その流域は阿南市の北東部に位置し、流域面積は約 14.9km²、幹川流路延長は約 7.5km（県知事管理区間）となっている。

打樋川流域は、一級河川那賀川の右岸下流部に位置し、流域の約 7 割は平地部となっている。この平地部は、海岸平野や那賀川の扇状地からなり、県下有数の早場米地帯である。しかし、その多くは地盤高が平均潮位以下の低平地であり、海水の逆流を防ぐために、河口部の水門は常に閉められている。このため、平常時の水位は、ポンプ排水により海面より低い状態で管理され、洪水時にもポンプ操作により対応し、洪水被害に備えている。

流域内人口は約 1 万 3 千人を数え、打樋川流域は、徳島県の南部地域における社会・経済・文化の基盤をなしている。また、流域内の道路事業や土地改良事業などの伸展に伴い、本水系の治水・利水・環境面における重要性は高い。

流域の地質は、仏像構造線によって分けられる秩父累帯と四万十帯に属し、平地部には沖積層が広がっている。流域の気候は、雨量が寒候期に少なく、暖候期に多い太平洋側気候に該当し、年平均降水量は 2,000mm 程度となっている。

自然環境

打樋川の下流域は元来広い河道を有し、右岸側にはヨシ・マコモ群落が形成され、堤防付近にはクロマツ林が見られるなど、特有の景観を形成している。魚種は下流域が最も多く 14 種類に上り、絶滅危惧（環境省レッドリスト）に指定されているメダカが確認されている。また、流域内では 25 種類の鳥類が確認されており、注目すべき種として、絶滅危惧（環境省レッドリスト）に指定されているチュウサギが、夏鳥として水辺に飛来する。

また、これより上流域は、住宅密集地と田園地帯が沿川に広がる区間となっている。この区間は、ほぼ全域に渡って河道が新設されているが、改修前の打樋川では、マコモ群落や水田雑草群落等が見られた。また、魚類では、コイギンブナ・オイカワ等の生息が確認された。

水質

打樋川^{うてびがわ}における水質汚濁に係わる環境基準類型は、河川 C 類型に指定されている（環境基準点^{てんじん} 天神橋）。平成 13 年度の BOD75% 値は 4.9mg/l であり、環境基準値（河川 C 類型 5mg/l）を達成している。しかし、平成 6 年度からの BOD75% 値の経年変化をみると、環境基準値を満たしていないことが多い。これは、打樋川^{うてびがわ}が生活排水等の影響を受けやすいことや、周辺土地利用状況が変化したことなどが原因と考えられる。

歴史・文化 観光

流域には、阿南市^{あなん}指定天然記念物の王子山古墳群^{おうじやま}、剣塚古墳^{つるぎづか}があり、神社も多く点在する。また、流域西部の津峯山^{つのみね}一帯は、室戸阿南海岸^{むろと あなん}国定公園特別地域に指定され、観光名所となっている。阿南市七見町^{あなん ななみ}では、沿川に阿南市スポーツ総合センターが建設され、人々の交流の場となっている。さらに、農村公園やベンチなどの施設が堤防に沿って点在し、管理用道路は周辺住民の散策道等に利用されている。

治水事業の沿革

打樋川^{うてびがわ}流域は、昭和 21 年南海地震^{なんかい}等による地盤沈下が生じ、地盤高が平均潮位（T.P.0.0m）より低い地帯が、流域内平地部の大半を占めていた。このため、通常の排水も潮位の影響を受ける状況であり、洪水のたびに浸水被害等が発生していた。近年では、平成 10 年 5 月 15～17 日の豪雨により、宅地と農地を合わせた浸水範囲は約 4.9km²に及び、134 棟の家屋が床下浸水等の被害を受けた。

打樋川^{うてびがわ}の治水事業は、昭和 49 年度から高潮対策事業に着手したのが始まりである。この計画は、周辺の海岸整備との整合を図り、昭和 35 年チリ地震津波級の高潮位を計画高潮位としており、平成 2 年度に排水機場（ポンプ 26m³/s）、平成 11 年度に水門が完成している。

一方、河道については、昭和 51 年 9 月の大出水を契機とし、平成元年度から、河口～米島地先^{よねしま}の区間（全長約 4.3km）で河川改修事業に着手した。この計画では、基準地点「啓島^{けいしま}」における計画高水流量を 120m³/s とし、築堤掘削等の河道整備を行ってきた。

ここでは、堤内地が低平であることや、県内有数の早場米の産地であることから、河川改修による用地買収幅を極力少なくする必要があり、計画高水位を上げることが困難な状況にあるため、治水安全度を他河川より低い安全度の計画（1/10）に設定し、計画高水位を堤内地程度の地盤高としている。

その後、米島地先^{よねしま}より上流区間においても浸水被害が頻発したため、平成 8 年度には、改修区間を河口から約 6.6km の地点まで延長し（全長約 6.6km）、平成 14 年度末現在、打樋川^{うてびがわ}の河道はほぼ全域において概成している。

支川^{みたにがわ}三谷川の河川改修事業は平成 3 年度に着手され、打樋川^{うてびがわ}合流部から上流約 0.7km の区間において、掘削等の河道整備が行われている (全長約 0.7km)。

その他事業

打樋川^{うてびがわ}流域内では、徳島市^{とくしま}と徳島県南部^{とくしま}地域を結ぶ主要幹線道路の国道 55 号阿南^{あなん}道路が整備され、周辺道路網の整備も進められている。

また、土地改良事業では、低平地の内水被害の軽減や、地域の活性を目的として、県営ほ場整備事業^{みのぼやし} (見能林地区、富岡^{とみおか}東部地区) や地盤沈下対策事業などが行われている。

(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

徳島県では、川づくりの基本理念として、「安全で安心できる社会の実現（安全 安心）」、「自然環境の保全と創造（環境）」、「個性を育み活力ある地域社会の形成（活力）」を掲げ、「自然環境と調和し安全で個性を育む社会」の実現を目指している。

打樋川水系の河川整備では、この基本理念に基づき、「住民に安全と安らぎを与え、人と自然が調和し、潤いをもたらす川」を目標として、関係機関や地域住民等と連携を図り、水系一貫とした河川整備を行い、近隣河川との調整に努めるとともに、治水・利水・環境にバランスのとれた河川の総合的な保全と利用を図ることとする。

洪水・高潮等による災害の発生防止または軽減に関する事項

打樋川流域は低平地であり、古くから浸水被害を受けてきたが、地形及び土地利用を勘案し、概ね10年に1回程度発生する規模の洪水を安全に流下させることを目標とし、打樋川水系の河道整備を進める。高潮対策については、チリ地震津波時の潮位と同規模の高潮に対しての被害の軽減に努める。

一方、計画規模を上回る洪水・高潮や、整備途上における施設能力以上の洪水による被害を最小限に抑えるため、関係機関や地域住民と連携を図り、ソフト対策の充実に努める。

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、今後とも適正な河川の利用及び水利用が図れるように、河川の水質や景観及び動植物の生息・生育環境に十分配慮し、河川管理者、地域住民及び河川利用者の協力のもと、現状の河川空間及び流況の維持に努める。

河川環境の整備と保全に関する事項

河川環境の整備と保全に関しては、現在の自然環境や美しい景観を守りつつ、人と自然が調和し、潤いをもたらす川づくりを目指す。また、流域内の自然環境等の調査に今後とも努めるとともに、地域住民の意見を取り入れ、河川環境の整備と保全に努める。

また、関係機関や地域住民等と一体となって、水質の改善を図るとともに、生活排水対策の取組みを支援する。

地域の個性の創造と地域発展に関する事項

打樋川^{うてびがわ}流域は、河川整備と周辺整備との連携により、人と自然環境の調和を目指した活力ある地域づくりが進められ、緑の田園地帯として生まれ変わり、住民に親しまれる川としての認識が高まるものと思われる。

このため、関係機関や地域住民等の意見を河川整備に反映させ、打樋川^{うてびがわ}流域を中心とする地域の実状に応じた川づくりに努めるとともに、河川に係る地域の取組みを促進、支援する。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水は、10年に1回程度の降雨で発生する洪水を対象とし、水門から約180m上流の基準地点「答島」において120m³/sとし、これを河道へ配分する。

表-1 基本高水のピーク流量等の一覧表単位

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	ダム等による調節流量	河道への配分流量
うてびがわ打樋川	こたじま答島	120	なし	120

単位 m³/s

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

計画高水流量は、基準地点「答島」において120m³/sとする。

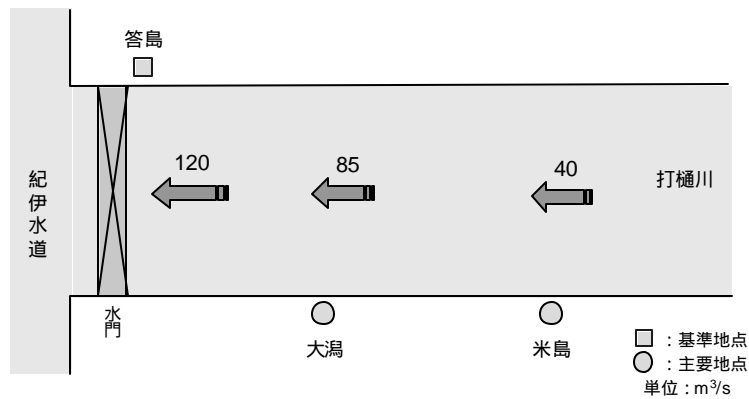


図-1 計画高水流量配分図

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

主要な地点における概ねの計画高水位及び河道幅は、次のとおりである。

河川工事の実施においては、河道は必要に応じて拡幅するとともに、河道の横断形は現在の形状をふまえ、河川環境の保全に配慮するものとする。また、計画高潮位は T.P.+3.422m とする。

表-2 主要な地点における計画高水位一覧表

河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 (T.P.m)	河道幅 (m)
うてびがわ 打樋川	こたじま 答島	0.2	+0.03	140
"	おおがた 大潟	1.0	+0.17	54
"	よねしま 米島	4.3	+0.72	32

TP. 東京湾平均海面

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

打樋川水系では既得水利権はない。

このため、流水の正常な機能を維持するための必要流量は、今後調査 検討のうえ、設定していくものとする。また、継続して流況の調査、情報収集を行い、流域全体の河川環境の整備と保全を図るものとする。

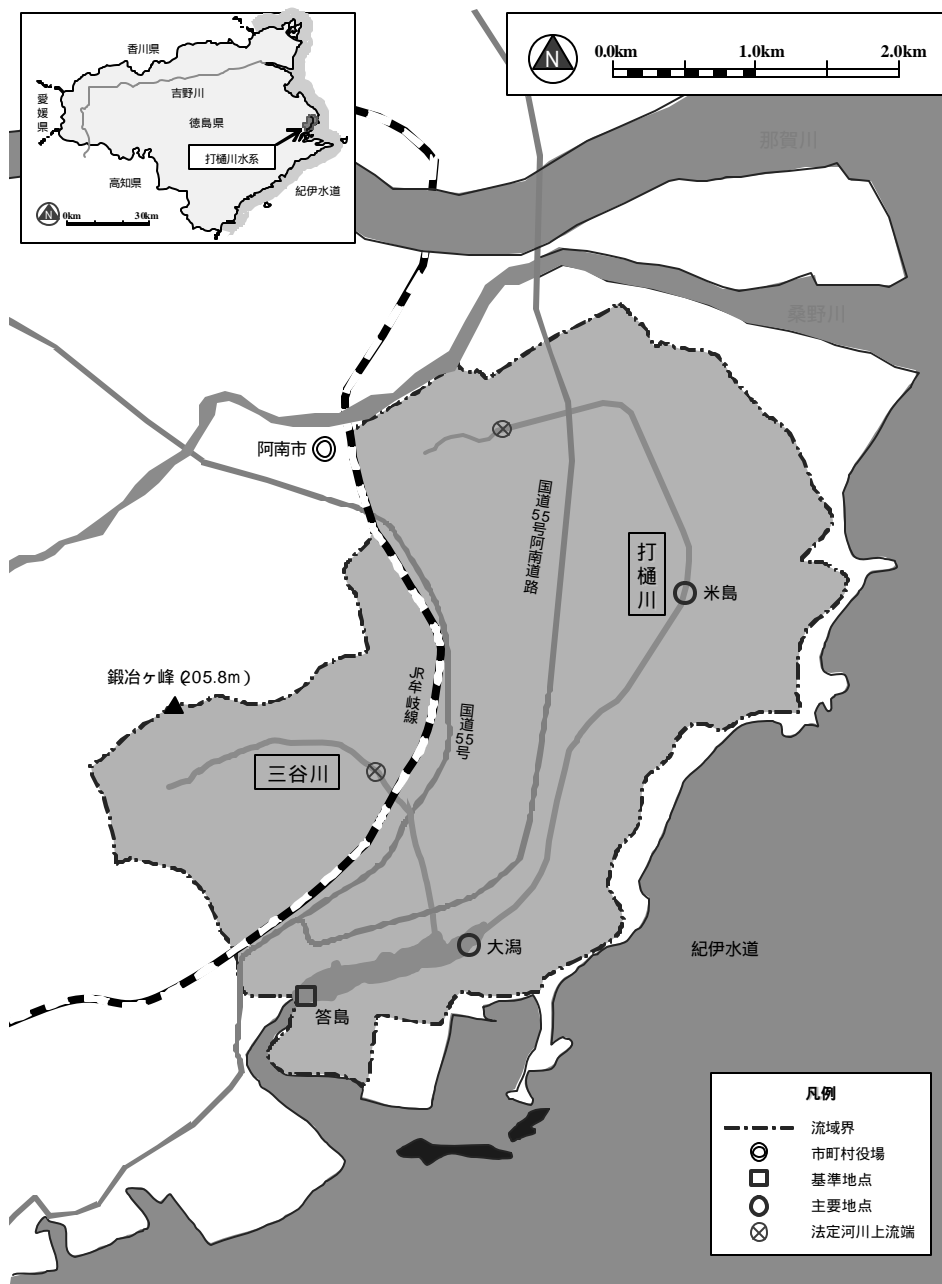


図-2 打樋川水系流域概要図 (SC=1 50,000)